

WG活動計画概要：交流活性化WG

一名護市の交流活性化における課題とToBe像ー

As-Is

内部環境	Strengths (強み)	<ul style="list-style-type: none">● 社会教育団体活動や中央公民館のサークル団体活動を支援したり、公民館講座等の生涯学習活動を実施したりするなど、住民が主体となった地域活動を市が推進している。● ゆいまーる（沖縄の方言で“助け合い”を表す言葉）の精神が地域に根付いている。● エイサーやハーリー大会等の地域の祭り・イベントが活発である。
	Weaknesses (弱み)	<ul style="list-style-type: none">● 地域活動の担い手が不足している。● 地区・区によって地域活動に対する温度差が大きい● 必要な情報の入手や相談窓口やサービスの利便性に満足している人の割合が低い。
外部環境	Opportunities (機会)	<ul style="list-style-type: none">● コロナが収束に向かっており、地域交流や地域イベント等が各地で復活している。● 「デジタル社会の実現に向けた重点計画」で「皆が支えあうデジタル共生社会の実現」が掲げられているなど、国としてもデジタルを活用した地域交流の活性化を推進している。
	Threats (脅威)	<ul style="list-style-type: none">● 若年層においては密な地域交流を避ける傾向にある（例：地域における交流について、「挨拶をする程度」の形式的なつきあいを望む割合が高い）● 世帯の規模が縮小しており、家族の支えあい機能が弱体化しつつある。

To-Be

コンセプト

地域住民同士がつながり、互いに支えあうことができる、
明るく住みやすいまちづくり（仮）

名護市の
関連計画で
整理された内容

ふれあい・支え合いの地域づくり
包括的な相談・支援の体制づくり
主体的に活動を担う人づくり

※第5次名護市地域福祉計画

目指す状態

住民



- ✓ 子ども会や老人会などのイベントが活発に行われ、住民同士が交流する機会が十分にある状態
- ✓ 子育てや介護などの困難に対して、住民同士の支えあい・助け合いが行われている状態
- ✓ 住民がボランティア活動や地域活動に積極的に参加している状態

地域



- ✓ 市の支援やサポートが必要な人が、適切な情報や窓口にたどりつくことができる状態
- ✓ 地域活動や住民同士の交流に対するサポートが充実している状態
- ✓ 地域活動や住民同士の交流を行う場が存在しており、気軽に利用できる状態（公民館などの公共施設等）